

慶良間諸島の主要な海洋生物を見分ける

サンゴ

魚

亀と貝

サンゴ

慶良間のサンゴ礁はサッカー場 90 個分以上に相当する面積を持ちます。ここには日本でみられる造礁サンゴ全種のうちの 60%以上が生息しています。このリストは、最もよくみられる 6 種類の石サンゴを見分けるのに役立ちます。

テーブル状サンゴ

サンゴは光合成からエネルギーの一部を得るため、日光が大好きです。テーブル状サンゴは、テーブルに似た大きな水平のプレートに成長します。これらのプレートは、広い表面積を利用して日光を吸収する太陽電池パネルのような働きをします。

塊状型サンゴ

塊状型のサンゴはボールや岩石のように見える丸い塊で成長します。一部の他のサンゴとは異なり、塊状型サンゴは、シンプルで堅牢な形状のおかげで、荒れた海でも無事に生き延びることができます。ゆっくりと成長するものの、家ほどの大きさにまで達することがあります。

樹枝状型サンゴ

名前が示すように、これらのサンゴは太い枝が上や側面に向かって成長するのが特徴です。樹枝状型サンゴはサンゴ礁の頂上の太陽の光が届く場所でよく見られます。樹枝状型サンゴは繊細で、激しい波や不注意な泳ぎ手によって容易に損傷します。

被覆状型サンゴ

これらの急速に造礁するサンゴは、岩の多い表面や堆積層に薄い膜をつくり、上向きではなく水平方向に広がって成長します。背が低いため、嵐に対して非常に強いサンゴです。

葉状型サンゴ

葉状とは「葉のような形状を持つ」ことを意味します。葉状型サンゴは、多弁花からレタスの玉までに至るまであらゆる葉状のものに似ています。葉状サンゴは、テーブル状サンゴのように日光を得るための広い表面積を有しており、葉と葉の間にあるスペースは小さな海洋生物の優れたシェルターとなっています。

指枝サンゴ

ラテン語の「digitus」に由来する digitate corals（指状のサンゴ）という名前を持つ指枝サンゴは、上方を差す指の形をしています。指枝サンゴは先が丸い垂直な円筒形です。樹枝状型サンゴとは異なり、二次分岐がありません。

魚

慶良間諸島には、約 360 種におよぶサンゴ礁の魚が生息しています。その中からよくみられる 6 種と最も壮観な 1 種を紹介します。

クマノミ (*Pomacentridae*)

クマノミは、明るい色（オレンジ、黄色、黒、または赤）に白のまだら模様という姿をしているので簡単に見つけられます。イソギンチャクとの共生関係から anemone fish（イソギンチャクの魚）と呼ばれることもあります。イソギンチャクの触手の針に耐性を持つクマノミは、イソギンチャクを捕食者や寄生虫から守り、イソギンチャクはそのお返しにクマノミにすみかと餌を提供します。世界一有名なクマノミは、もちろん 2003 年のディズニーピクサーアニメーションによるファインディング・ニモに登場するニモです。

スズメダイ (*Pomacentridae*)

スズメダイは 1 色、あるいはコントラストの強い 2 色の鮮やかな見た目をしています。身が厚く二又の尾をしており、活発に素早く動きます。

チョウチョウウオ (*Chaetodontidae*)

チョウチョウウオの名前は、蝶の羽に似た鮮やかな色と模様になんでつけられました。チョウチョウウオは厚く細い体を持ちます。目の上を通る黒い帯と体側にある斑点は、どちらの端が頭でどちらが尾なのか、つまりチョウチョウウオがどちらの方向に逃げるのか捕食者を混乱させるためのものです。

ベラ (*Labridae*)

鮮やかな色をしたベラは、その長い口から、ドイツ語で「唇の魚」と呼ばれます。ベラが何かを食べたいときは、顎全体を前方に伸ばします。ベラの仲間の一部は、「客」の魚が体から寄生虫を取り除いてもらう「サービス」を受けるクリーニングステーションを開業し、掃除魚として働きます。

タカサゴ (*Pterocaesio digramma*)

タカサゴ (Double-stripe Fusilier) には膨大な数の名前があり、そのほとんどは体の帯の模様に関係しています。他の名前には、Double-line Fusilier、Two-stripe Fusilier、Yellow-stripe Fusilier などがありますが、おそらく最も記憶に残る呼び名は banana fish でしょう。タカサゴは沖縄県の公式な県魚で、人気のグルクンと呼ばれる人気の料理食材でもあります。動物プランクトンを食べ、体の色が昼間は青と黄色、夜眠るときは緑と赤に変わります。

ナンヨウブダイ (*Chlorurus microrhinos*)

オスの成魚の目立つ額から「Steephead Parrotfish（絶壁頭のブダイ）」とも呼ばれるナンヨウブダイは、体長 70cm 以上にまで成長します。成長の過程で、色が白い横縞のある黒から緑がかった茶色、そして最後に青緑色に変わります。サンゴ礁から藻類を取り除くというサンゴ礁の生態系で重要な役割を果たします。ナンヨウブダイは、睡眠中はスライムの泡のような保護粘液で盾を作って身を守ります。

マンタ (*Mobulidae*)

体を広げると最大 3.5 メートルになるマンタは、慶良間諸島で遭遇する最大級の、そして最も壮観な生き物の一種です。背は濃く、腹側は淡い色をしたマンタは、幅広の頭部、三角形のヒレ、そして細い鞭のような尾を持っています。少し邪悪な見た目をしているものの、彼らはエラを通してプランクトンを食べる、愛想がよく賢い濾過摂食者です。マンタは阿嘉島のすぐ北でよくみられます。

ウミガメとオオシャコガイ

慶良間諸島には、7種のウミガメのうちの3種が生息しています。5月から9月にかけて、ウミガメは浜辺の高いところで産卵します。卵は二か月で孵化します。

アオウミガメ (*Chelonia mydas*)

アオウミガメは主に草食性で、まるで生きる芝刈り機のようにうろうろすることによって海草を刈るとともに健康を保ちます。名前のアオは、甲羅の色ではなく、甲羅の下緑色の脂肪を指します。アオウミガメの鼻は短く、口先が鋭いタイマイとは違って吻端が突き出ていません。アオウミガメは、足ヒレの爪が一本だけという点でも、二本の爪を持つタイマイと異なっています。アオウミガメは絶滅危惧種に指定されています。

タイマイ (*Eretmochelys imbricata*)

タイマイは、細い頭、鋭く曲がった口先、そして甲羅の鋸歯状の縁によって見分けられます。長い口先を使って、サンゴの隙間の奥深くにいる海綿、イソギンチャク、エビ、イカを漁ることができます。長い間、タイマイの甲羅は装飾的なべっ甲の主な材料として使われていました。その結果、タイマイは現在近絶滅種に指定されています。

アカウミガメ (*Caretta caretta*)

アカウミガメは、固い甲羅を持つ亀では世界最大の種です。アカウミガメは雑食性で、魚やクラゲからアサリやカニにいたるまで、強い顎であらゆるものを粉砕します。危急種に分類されています。

オオシャコガイ (*Tridacninae*)

現在存在する二枚貝の中で最大であるオオシャコガイは、溝の入った重い貝殻が特徴です。オオシャコガイはサンゴ砂かサンゴに生息し、サンゴ礁と同様に、栄養の多くを体内に飼っている褐虫藻の光合成から得ます。できるだけたくさん日光を浴びるため、貝殻の開口部を太陽に向け、上向きになっています。近づくと、鮮やかなエレクトリックブルーの膜が収縮します。